

# コロンビア

Republic of Colombia

	2011年	2012年	2013年
①人口：4,712万人（2013年）			
②面積：114万1,748km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：8,025米ドル （2013年）			
④実質GDP成長率（%）	6.6	4.0	4.7
⑤消費者物価上昇率（%）	3.73	2.44	1.94
⑥失業率（%）	10.8	10.4	9.6
⑦貿易収支（100万米ドル）	6,090	4,744	2,832
⑧経常収支（100万米ドル）	△9,854	△11,834	△12,722
⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	32,300	37,467	43,633
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル、期末値）	75,568	78,763	91,879
⑪為替レート（1米ドルにつき、 コロンビア・ペソ、期中平均）	1848.2	1798.2	1868.9

〔出所〕①②④～⑥：国家統計局（DANE）、③⑦～⑪：コロンビア中央銀行

好調な内需を背景に、2013年の実質GDP成長率は前年比4.7%を記録した。消費と設備投資の拡大により2014年に入ってからインフレ率が緩やかに上昇していることから、コロンビア中央銀行は政策金利を3.5%に引き上げた。輸出が微減した一方、輸入は過去最高を記録し、貿易黒字は減少した。対内直接投資額は過去最高の168億ドルを記録、製造業や鉱業などで大きく伸びた。対外直接投資では、中南米を中心に金融部門の投資が活発で、2012年の引き揚げ超過からプラスに転じた。

## 好調な内需により景気は回復基調

2013年のコロンビア経済は内需が好調に推移し、実質GDP成長率は4.7%と、前年の4.0%を上回った。2011年以降の四半期ごとの成長率（前年同期比）をみると、2011年第3四半期に8.0%とピークに達した後、2012年第3四半期に2.5%まで落ち込んだがその後は回復傾向にあり、2013年第4四半期には5.3%にまで回復した。企業の好調な業績を反映し設備投資が拡大を続け、国内総固定資本形成が6.1%と景気を押し上げた。2014年に入ってからインフレ率は上昇傾向にあり、コロンビア中央銀行（以下、中銀）は、2013年3月から3.25%で維持してきた政策金利を2014年4月28日に0.25ポイント引き上げ、3.5%とした。なお、中銀によると、堅調に推移する企業の設備投資、民間消費などの内需に支えられ、2014年の実質GDP成長率は4.7%を見込んでいる。

2013年のGDP成長率を主要産業部門別でみると、不動産用地の不足を背景に、老朽化した一戸建て住居や商業

ビルを更地にして新しい集合住宅や商業用ビルを建設する動きが上半期に目立ち、それに牽引された建設部門が最大の伸び率（12.0%増）を示した。農林水産食料品部門は5.5%増であった。鉱物性燃料部門は金属鉱物分野や石炭の輸出が減少したものの、石油・同調製品などの伸びに牽引され全体で4.9%増加した。

2013年の経常収支は127億2,200万ドルの赤字（GDP比3.4%）で、赤字幅は前年比7.5%拡大した。経常収支が継続して赤字を記録する一方、製造業や鉱業、商業・外食・ホテル業への旺盛な対内直接投資を中心に資本収支は191億7,400万ドルの黒字を記録し、外貨準備高は過去最高となる436億3,300万ドル（前年比16.5%増）となった。

## 主力の石油輸出は堅調なるも輸出総額は減少

2013年の輸出額（通関ベース）は588億2,200万ドルと前年比2.2%減少した。品目別にみると自動車（8億6,100万ドル、48.8%増）、エッセンシャルオイル（7億4,800万ドル、9.8%増）などが増加した。また、設備投資の拡大で、原油生産量が増加したため、石油・同調製品が3.0%増の320億2,700万ドルを記録した一方、石炭が14.3%減少したことで、総額の67.9%を占める鉱物性燃料は減少（399億2,100万ドル、0.5%減）した。なお、2013年の原油生産量

表1 コロンビアの需要項目別実質GDP成長率

	2012年	2013年	2013年				2014年
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質GDP成長率	4.0	4.7	2.9	4.6	5.8	5.3	6.4
民間最終消費支出	4.4	4.2	3.6	4.4	4.5	4.4	5.1
政府最終消費支出	5.7	5.8	5.6	5.7	5.9	6.1	7.5
国内総固定資本形成	4.6	6.1	4.5	0.8	11.7	7.7	14.6
財貨・サービスの輸出	6.1	5.4	0.7	10.3	2.3	8.5	6.9
財貨・サービスの輸入	8.9	4.5	1.7	4.2	4.8	7.4	16.3

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕国家統計局（DANE）から作成

表2 コロンビアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
農林水産食料品	6,629	6,680	11.4	0.8	農林水産食料品	6,541	6,348	10.7	△2.9
コーヒー	2,289	2,270	3.9	△0.8	穀物	2,034	1,980	3.3	△2.6
豆類・果実	942	895	1.5	△4.9	飼料	791	843	1.4	6.6
工業製品	9,954	9,945	16.9	△0.1	工業製品	45,778	45,630	76.8	△0.3
原料プラスチック	978	1,023	1.7	4.6	自動車	7,026	5,958	10.0	△15.2
自動車	579	861	1.5	48.8	通信・音響映像機器	3,367	3,758	6.3	11.6
鉄鋼・同製品	1,155	854	1.5	△26.0	一般産業機械	2,829	2,843	4.8	0.5
エッセンシャルオイル	681	748	1.3	9.8	その他輸送機械	1,770	2,700	4.5	52.5
鉱物性燃料	40,116	39,921	67.9	△0.5	医薬品	2,246	2,466	4.2	9.8
石油・同調製品	31,098	32,027	54.4	3.0	鉄鋼・同製品	2,684	2,380	4.0	△11.4
石炭	7,805	6,688	11.4	△14.3	有機化学品	2,184	2,378	4.0	8.9
その他製品	3,426	2,275	3.9	△33.6	鉱物性燃料	6,699	7,326	12.3	9.4
金(マネタリーゴールドを除く)	3,404	2,256	3.8	△33.7	石油・同調製品	5,736	6,380	10.7	11.2
合計(その他含む)	60,125	58,822	100.0	△2.2	合計(その他含む)	59,111	59,397	100.0	0.5

[出所] 国家統計局 (DANE) から作成

表3 コロンビアの主要国・地域別輸出入(再輸出を含む総額ベース)<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2012年		2013年		2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
北米 (NAFTA)	23,135	19,713	33.5	△14.8	21,837	22,834	38.4	4.6
米国	21,833	18,459	31.4	△15.5	14,242	16,337	27.5	14.7
メキシコ	835	864	1.5	3.4	6,453	5,496	9.3	△14.8
カナダ	467	390	0.7	△16.5	1,142	1,001	1.7	△12.3
ALADI(メキシコ除く)	12,924	12,650	21.5	△2.1	9,326	8,198	13.8	△12.1
アンデス共同体	3,618	3,392	5.8	△6.2	2,301	2,300	3.9	△0.1
エクアドル	1,910	1,975	3.4	3.4	1,090	882	1.5	△19.1
ペルー	1,582	1,274	2.2	△19.5	929	870	1.5	△6.3
その他ALADI(メキシコ除く)	9,307	9,258	15.7	△0.5	7,024	5,898	9.9	△16.0
パナマ	2,916	3,329	5.7	14.2	75	59	0.1	△20.6
ベネズエラ	2,556	2,256	3.8	△11.7	533	431	0.7	△19.1
ブラジル	1,291	1,591	2.7	23.2	2,851	2,590	4.4	△9.1
チリ	2,189	1,572	2.7	△28.2	966	904	1.5	△6.4
アルゼンチン	288	433	0.7	50.2	2,396	1,734	2.9	△27.7
EU27	9,051	9,230	15.7	2.0	7,358	7,941	13.4	7.9
スペイン	2,940	2,879	4.9	△2.1	789	963	1.6	22.1
オランダ	2,503	2,273	3.9	△9.2	279	327	0.6	17.0
英国	1,129	1,116	1.9	△1.1	568	511	0.9	△10.0
ドイツ	395	780	1.3	97.5	2,267	2,207	3.7	△2.6
イタリア	468	465	0.8	△0.7	961	1,011	1.7	5.1
フランス	277	327	0.6	18.0	1,129	1,433	2.4	26.9
中国	3,343	5,102	8.7	52.6	9,822	10,363	17.4	5.5
インド	1,363	2,993	5.1	119.6	1,146	1,144	1.9	△0.2
日本	360	388	0.7	7.7	1,677	1,479	2.5	△11.8
合計(その他含む)	60,125	58,822	100.0	△2.2	59,111	59,397	100.0	0.5

[注] ラテンアメリカ統合連合 (ALADI) は、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、キューバ、エクアドル、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラが加盟。

アンデス共同体は、ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルーが加盟。

[出所] 国家統計局 (DANE)

は前年比6.8%増の日量100万8,000バレルを記録し、初めて100万バレルを超えた。

コーヒーは、国際価格の低迷を受け、22億7,000万ドルと前年比で0.8%減少したが、数量ベースでは58万9,368トン(33.6%増)と増加した。コーヒー生産者連盟(FNC)によると、2013年のコーヒー生産量は月間平均90万7,000

袋(60kg/袋)で、前年比40.6%増と大幅に増加したものの、生産増が輸出の増加に結びついていない。FNCは「アジア市場開拓を通じてコロンビアのアラビカ豆を世界に広めたい」と意気込む一方、国内では、財政支援を求めるコーヒー農家のデモが頻発している。政府は一定のコーヒー豆の収穫量に対し支援を行う補助金制度を2014年2月から開始するなど対応するも、根本的な問題の解決には至っていない。国際価格の低迷が続くなか、引き続きコーヒー農家への財政支援は課題となっている。

輸出を地域別にみると、北米(197億1,300万ドル、14.8%減)、メキシコを除くラテンアメリカ統合連合(ALADI)(126億5,000万ドル、2.1%減)、EU27(92億3,000万ドル、2.0%増)であった。国別では、総額の31.4%を占める米国向けが鉱物性燃料輸出の落ち込みを主要因として前年比15.5%減の184億5,900万ドルとなった。以下、中国(51億200万ドル、52.6%増)、パナマ(33億2,900万ドル、14.2%増)、インド(29億9,300万ドル、2.2倍)と続いた。上記3カ国へは鉱物性燃料の輸出が好調で、各国向け輸出額の約9割を占めた。

一方、2013年の輸入額（通関ベース）は、前年比0.5%増の593億9,700万ドルと微増ながら過去最高を記録した。品目別では、鉱物性燃料が9.4%増の73億2,600万ドルと総額を押し上げた一方、総額の76.8%を占める工業製品は456億3,000万ドルと、0.3%減だった。内訳をみると、その他輸送機械（27億ドル、52.5%増）、通信・音響映像機器（37億5,800万ドル、11.6%増）、医薬品（24億6,600万ドル、9.8%増）、自動車（59億5,800万ドル、15.2%減）などとなった。

国別では、総額の27.5%を占める米国（163億3,700万ドル、前年比14.7%増）が1位、次いで中国（103億6,300万ドル、5.5%増）、メキシコ（54億9,600万ドル、14.8%減）と続き、前年から上位の順位に変更はなかった。なお中国からの輸入額は2007年の3倍に拡大し、2013年に初めて100億ドルを超えた。

### ■ 新規FTA交渉には慎重な姿勢

コロンビアは、現在米国やEUなどとのFTAを発効済みである。2013年におけるそれらの国・地域との貿易比率（FTAカバー率）は往復貿易が65.3%であり、57.4%を記録した2012年より増加している。米国が29.4%と最大で、EU、メルコスール、メキシコが続く。

2013年10月に就任したサンティアゴ・ロハス商工観光相はセルヒオ・ディアス・グラナドス前商工観光相が推進した「FTAに基づく開かれた経済路線」の踏襲には慎重な姿勢を見せる。ロハス商工観光相は、進行中のFTA交渉を凍結することはないと前置きした上で、長年、取り沙汰されていた中国との交渉も含め、任期中の新たなFTA交渉はないと明言した。また、FTA締結により影響を受ける農業分野に対して、政府が対策を取る意思を表明した。2013年7月から8月下旬にかけて農業・工業部門の労働者などによる待遇改善やFTA反対などを訴えるデモが国内各地で頻発したため、サントス大統領が国民の支持を取り付けるべく、閣僚の交代と政策の修正に踏み切ったと指摘されている。

他方、2014年2月にメキシコ、チリ、ペルーと署名した「太平洋同盟枠組み協定の追加議定書」は同年末に発効する見込みだ。92%の品目の関税が即時撤廃され、残りの8%も最長17年間かけて段階的に関税が削減される内容に農業団体は反発している。しかし、太平洋同盟をてことしたアジア・大洋州地域との関係強化や欧米先進国との制度的調和、開かれた経済統合体としてのイメージアップなどを通じて、今後のさらなる経済成長、競争力強化、海外からの投資誘致などが経済界を中心に期待されている。

表4 コロンビアのFTA発効・署名・交渉状況

(単位：%)

	FTA	コロンビアの貿易に占める構成比 (2013年)		
		往復	輸出	輸入
発効済み	米国	29.4	31.4	27.5
	EU	14.5	15.7	13.4
	メキシコ	5.4	1.5	9.3
	チリ	2.1	2.7	1.5
	カナダ	1.2	0.7	1.7
	アンデス共同体	4.8	5.8	3.9
	メルコスール	7.8	7.3	8.3
	欧州自由貿易連合 (EFTA)	n.a.	n.a.	n.a.
	カリブ共同体 (CARICOM)	n.a.	n.a.	n.a.
	中米北部3カ国	n.a.	n.a.	n.a.
	ニカラグア	n.a.	n.a.	n.a.
キューバ	0.1	0.1	0.1	
合計		65.3	65.2	65.7
署名済み	コスタリカ	n.a.	0.5	n.a.
	パナマ	2.9	5.7	0.1
	韓国	n.a.	n.a.	2.2
	太平洋同盟	9.3	6.3	12.2
	イスラエル	0.5	0.7	0.4
交渉中	日本	1.6	0.7	2.5
	トルコ	0.7	1.1	0.3

[注] ①カリブ共同体 (CARICOM) は、アンティグア・バーブーダ、バハマ（諸島）、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネビス、セントルシア、セントビンセント・グレナディーン、スリナム、トリニダード・トバゴ、モントセラト（英）。

②中米北部3カ国は、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル。

[出所] 国家統計局 (DANE)

### ■ 製造業や鉱業の対内直接投資が拡大

2013年の対内直接投資額（国際収支ベース）は、前年比8.0%増の167億7,170万ドルで過去最高を記録した。2006年以降、最大の投資受け入れ分野は石油と鉱業（石炭含む）だが、2013年は石油分野への投資が9.4%減の49億920万ドルと減少した一方、鉱業は25.9%増の29億1,620万ドルと大きく伸びた。また、自動車や建築資材などの製造業（26億5,890万ドル、前年比51.5%増）と商業・外食・ホテル（15億8,420万ドル、14.1%増）の投資受け入

表5 コロンビアの業種別対内・対外直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位：100万ドル、%)

	対内直接投資			対外直接投資		
	2012年	2013年		2012年	2013年	
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
石油	5,416	4,909	△9.4	△3,107	1,516	-
鉱業（石炭含む）	2,316	2,916	25.9			
製造業	1,755	2,659	51.5	562	1,477	162.7
運輸・倉庫・情報通信	1,783	1,740	△2.4	550	△2	-
商業・外食・ホテル	1,388	1,584	14.1	16	△54	-
金融	1,500	1,578	5.2	697	3,768	440.5
電力・ガス・水道	699	471	△32.5	513	644	25.5
建設	290	316	9.2	99	76	△23.3
農林水産	75	278	269.2	△7	33	-
合計（その他含む）	15,529	16,772	8.0	△606	7,652	-

[出所] コロンビア中央銀行（2014年4月）



れ額の増加も総額を押し上げた。

最大の課題の一つである治安の改善など、政府が外国人観光客誘致に注力した結果、2013年にコロンビアを訪問した外国人数は前年比8.5%増の172万6,300人に達した。今後の需要増加を見込み、米国系大手ホテルチェーン各社によるホテル建設が増加しており、ホテル業界はしばらく好調が続くとみられている。

2013年の対内直接投資を地域別にみると、1位が欧州(62億3,240万ドル)、次いで北米(39億5,560万ドル)、カリブ島しょ地域(33億510万ドル)の順だった。2012年に投資受け入れ額が大幅に増えた南米は前年比77.7%減の8億9,190万ドルにとどまった。

国別にみると、米国(29億8,100万ドル)が最大で、パナマ(21億470万ドル)、スイス(20億7,270万ドル)と続いている。スイス、スペインなど欧州諸国のコロンビア市場に向けた投資は旺盛で、欧州全体では前年比2.6倍と急増している。一方、チリは2012年に同国の小売り・流通大手であるセンコスッドがフランス系小売り大手カルフルのコロンビア国内店舗を譲り受けたことにより最大の投資国となったが、2013年には目立った案件がなく、89.7%減と大きく減少した。また、2012年にFTAが発効したことで、投資受け入れの増加が期待された北米3カ国には目立った変化がみられない。

2013年における個別投資案件をみると、ホテル分野や小売り分野への投資が目立つ。米国のグローバルハイアットコーポレーションがボゴタ、カリ、カルタヘナで宿泊施設を建設し、2016年までに開業を目指すを発表した。また、チリの小売り・流通大手であるリプレイが北東部ブカラマンガ市に大型ショッピングモールをオープンした。その他、鉱業・エネルギー分野への投資が相次ぎ、パシフィック・ルビアーレス・エナジー(カナダ)、アドベント・インターナショナル(米国)、グレンコア・エクスト

表6 コロンビアの主要国・地域別対内・対外直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位:100万ドル、%)

	対内直接投資			対外直接投資		
	2012年	2013年		2012年	2013年	
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
北米 (NAFTA)	3,656	3,956	8.2	609	337	△44.6
米国	2,516	2,981	18.5	176	307	73.9
メキシコ	849	705	△17.0	430	30	△93.0
カナダ	291	269	△7.4	2	0	△88.2
欧州	2,411	6,232	158.4	△174	1,149	-
スイス	698	2,073	197.0	△153	100	-
英国	1,350	1,368	1.4	202	293	45.2
スペイン	626	1,002	60.1	△200	718	-
オランダ	△1,792	669	-	1	6	548.1
カリブ島しょ地域	2,793	3,305	18.3	△3,393	912	-
バミューダ諸島	747	938	25.5	△2,244	769	-
アンギラ (英)	614	856	39.3	-	-	-
中米	2,402	2,118	△11.8	1,679	3,675	118.9
パナマ	2,379	2,105	△11.5	775	3,202	313.3
南米	3,992	892	△77.7	641	1,592	148.5
チリ	3,150	323	△89.7	222	680	206.2
ブラジル	382	271	△29.0	194	175	△9.9
ペルー	159	74	△53.3	193	634	228.1
アジア・大洋州	164	141	△13.8	△1	0	-
日本	61	80	31.4	△0	△0	-
オーストラリア	16	21	31.5	-	-	-
韓国	43	16	△63.2	0	0	△70.3
中国	35	10	△72.1	0	0	△25.0
合計(その他含む)	15,528	16,772	8.0	△607	7,652	-

[出所] コロンビア中央銀行(2014年4月)、貿易投資観光振興機構(Proexport)

表7 コロンビアの主な対内直接投資案件(2013年)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
石油・天然資源	パシフィック・ルビアーレス・エナジー	カナダ	9月9日	10億ドル	子会社のパシフィック・インフラストラクチャーのカリブ海沿岸のプエルト・バビアのパイプライン建設に投資。
運輸	インバラ(トラフィグラグループ)	スイス	7月19日	8億ドル	中部サンタンデル県のバランカベルメハにおける新内陸港湾建設・運営に投資。同港はマグダレナ川を通じて、カリブ海のバランキージャ港やカルタヘナ港へのアクセスが可能となる。
投資会社	アドベント・インターナショナル	米国	12月10日	5億9,500万ドル	石油パイプラインの運営などを行う Oleoducto Central (OCENSA) の22%株式購入を発表。
鉱業	グレンコア・エクストラクタ	スイス	5月28日	5億5,000万ドル	コロンビアに子会社(Prodeco)をもつ同社は、5億5,000万ドルの投資でカリブ海側新港湾の操業を開始した。
金融	アクサ・グループ	フランス	11月12日	3億5,000万ドル	コロンビア銀行と合併会社を設立。
ホテル業	グローバルハイアットコーポレーション	米国	9月23日	3億3,000万ドル	ボゴタ、カリ、カルタヘナに宿泊施設の建設を発表。2016年のサービス開始を目指している。
小売り	リプレイ	チリ	4月5日	2億7,200万ドル	コロンビア北東部ブカラマンガにショッピングモールをオープン。今後、他地域でのショッピングモールのオープンを予定。
食品	日清食品ホールディングス	日本	8月23日	600万ドル	即席袋麺・カップ麺の販売。今後製造工場を設置する予定。
通信ケーブル	古河電気工業	日本	7月17日	500万ドル	西部バジェデルカウカ県カリ市に、光ファイバーケーブル工場設立を表明。
デジタルカメラ	富士フイルムホールディングス	日本	3月5日	n.a.	直営店を設置し、写真事業に特化することを発表。
鉱業	丸紅	日本	8月6日	n.a.	鉱業用ショベルカーなどの販売会社CHM Mineríaを設立(40%出資)。
家電	シャープ	日本	12月11日	n.a.	コロンビアでの支社設立を表明。今後は直接販売を目指す。

[出所] 貿易投資観光振興機構(Proexport) 資料、各社発表および報道などから作成

表8 コロンビアの主な対外直接投資案件（2013年～2014年2月）

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
建設	アルゴス	米国	2014年1月23日	7億2,000万ドル	米国内最大級の建材会社である Vulcan Materialsのセメント部門ならびにコンクリート部門を購入。年間160万トンのセメント生産が可能のため、同社は米国南東部で最も影響力をもつセメント会社となった。
製薬	ラ・サンテ	ドイツ	2014年2月6日	n.a.	ドイツ資本Pharmetiqueを買収。ユーロ圏での販売拡大を決定した。
金融	バンコロンビア	パナマ	2013年2月19日	21億ドル	英国資本HSBC銀行のパナマ部門を買収。銀行業だけでなく保険会社も含まれる。
保険	グルーポ・スーラ	ペルー	2013年4月24日	5億1,400万ドル	系列子会社の一つであるスーラ・アセット・マネジメントがスペイン資本BBVA銀行から年金基金運用会社AFP Horizonte株を50%取得すると発表。
金融	バンコ・デ・ボゴタ	パナマ	2013年12月20日	5億500万ドル	スペイン資本BBVA銀行からの100%株式取得を発表した。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

ラータ（スイス）などの案件があった。さらに、好調な消費に注目して、コカ・コーラ・フェムサ（メキシコ・米国、食品、2億ドル）、カシノ・グループ（フランス、小売り、1億7,000万ドル）などの案件もみられた。

### ■対外直接投資の主な担い手は金融部門

2013年の対外直接投資額は76億5,190万ドルとなり、史上初となった2012年の引き揚げ超過から反転し、ほぼ2011年以前の水準に戻った。

分野別では、1位が金融（37億6,780万ドル、前年比5.4倍）で、次いで石油および鉱業（石炭含む、15億1,620万ドル）、製造業（14億7,690万ドル、2.6倍）、電力・ガス・水道（6億4,440万ドル、25.5%増）の順だった。

地域別でみると、中米（36億7,480万ドル、前年比2.2倍）や南米（15億9,190万ドル、2.5倍）、欧州（11億4,930万ドル）が急増した一方、北米（3億3,710万ドル、44.6%減）が大きく減少した。国別では、パナマ向け（32億160

万ドル、4.1倍）が大幅に増加し、総額の4割強を占めたのが特徴的だ。これは金融大手のバンコロンビアによる世界最大級の金融グループHSBCのパナマ拠点買収案件や、同じく金融大手のバンコ・デ・ボゴタによるスペインの大手銀行BBVAのパナマ拠点買収案件があったことが背景にある。

### ■強まる二国間の経済関係

2013年の対日輸出額は前年比7.7%増の3億8,800万ドルを記録したが、総額に占める割合は0.7%にすぎない。品目別ではコーヒーが対日輸出総額の6割弱を占め、次いで花きが1割強、そのほか、フェロニッケル、化学製品などであった。一方、対日輸入額は前年比11.8%減の14億7,900万ドルにとどまり、総額に占める割合は前年の2.8%から2.5%に低下した。品目別では、自動車・同部品が全体の2割強を占めるほか、タイヤ・ゴム類、鉄鋼・同製品などが上位を占めた。

2013年の日本からの直接投資額は8,000万ドル強で総額の0.5%にすぎないものの、前年比31.4%増を記録した。拡大するコロンビア市場での販売強化を目的として、富士フィルムホールディングス（3月）、日清食品ホールディングス（8月）が首都ボゴタにそれぞれ拠点を新設した。また、古河電気工業は7月に西部バジェデルカウカ県に光ファイバーケーブルの製造拠点を設立した。

2013年は前年12月に始まった日本・コロンビアEPAの締結交渉が本格化し、3回の交渉が行われた。2014年に入ってから2月にボゴタ、5月に東京で交渉が行われ、その進展に両国経済界の期待が高まっている。

表9 コロンビアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

（単位：100万ドル、%）

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年	2013年				2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
伝統産品	249	275	71.0	10.6	自動車・同部品	377	355	24.0	△6.0
コーヒー	215	227	58.4	5.6	乗用車	278	296	20.0	6.3
フェロニッケル	11	35	9.1	219.2	自動車部品	52	43	2.9	△17.7
石炭	23	14	3.5	△42.2	貨物用自動車	47	16	1.1	△65.3
その他主要産品	61	58	14.9	△6.0	タイヤ・ゴム類	163	165	11.2	1.3
花き	56	52	13.4	△7.1	鉄鋼・同製品	188	153	10.4	△18.3
エメラルド	4	4	0.9	1.6	機械類（ブルドーザー等）	119	87	5.9	△27.3
素材産業	25	27	6.9	8.9	印刷機	52	51	3.5	△1.9
化学製品	23	25	6.6	11.8	医療機器	36	30	2.0	△16.3
農牧産業	17	18	4.8	11.4	ボールベアリング等	27	24	1.6	△10.8
コーヒー調整品	14	17	4.3	18.1	遠心分離機（乾燥機等）	17	16	1.1	△1.7
軽工業	4	6	1.5	33.0	モーターサイクル・同部品	71	65	4.4	△8.0
合計（その他含む）	360	388	100.0	7.7	合計（その他含む）	1,677	1,479	100.0	△11.8

〔出所〕国家統計局（DANE）、商工観光省